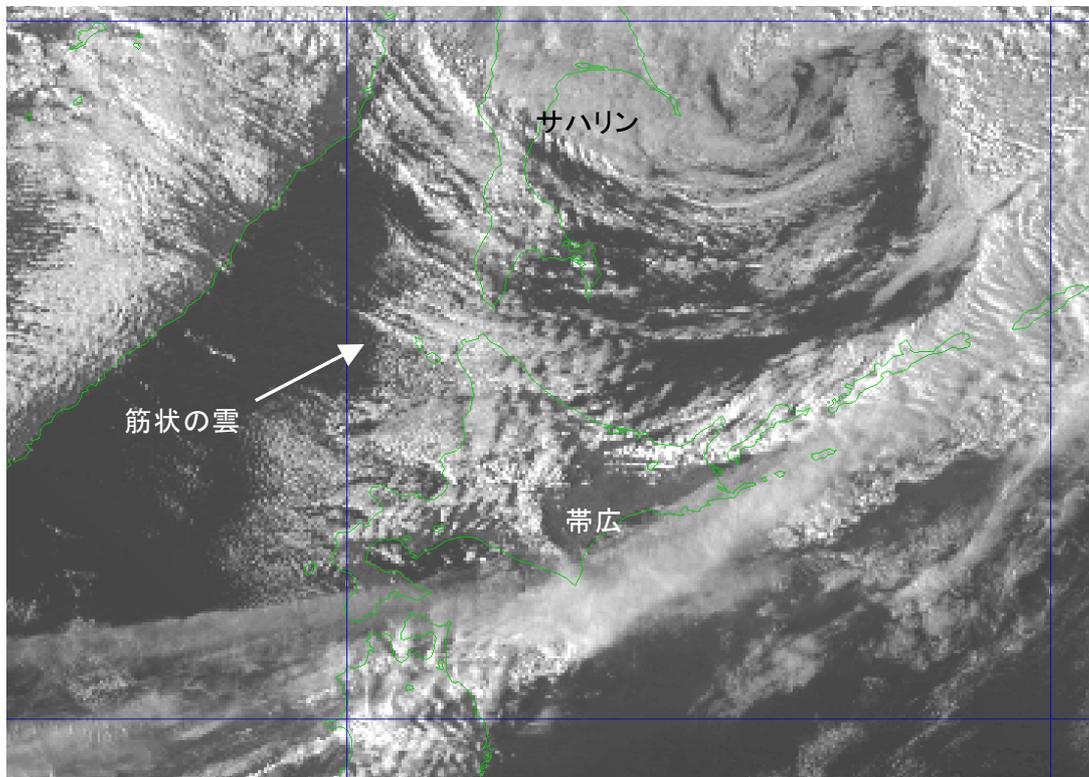


今月の気象衛星画像 (2006年10月)



2006年10月17日15時の可視画像

一足早く訪れた北海道の冬

秋から冬にかけて日本付近はしばしば西高東低の冬型の気圧配置となり、日本海には「筋状の雲」が見られるようになる。この雲は大陸からの寒気を伴った季節風が海上を渡るときに水蒸気が供給されてできる対流雲列である。筋状の雲は寒気の強さの目安となり、寒気が強いときは大陸のすぐそばから発生して日本海全域を覆うようになる。

画像は10月17日15時の可視画像である。画像では低気圧の中心はサハリンの東に抜け、低気圧後面の寒気移流に伴い沿海州及び北海道北西部からオホーツク海にかけて筋状の雲が見られる。

10月16日から17日にかけて、北海道では低気圧が発達しながらオホーツク海に達し、一時的に冬型の気圧配置となった。北海道は上空5,600メートル付近で -18°C 以下の寒気に覆われ、17日の道内の最低気温は帯広で 2.5°C （平年値は 4.0°C ）と平年よりやや低くなった。

時候の上では仲秋であるが、衛星画像から北海道では一足早い冬のきざしが現れているようである。

(気象衛星センター)